

白糠町ゼロカーボンシティ宣言

近年、気候変動が一因とみられる異常気象の影響により、世界各国で深刻な自然災害が発生しています。また、国内各地においても、猛暑や集中豪雨、大型台風などが頻発するなど、その災害も激甚化し、気候変動問題は、私たちの生活に大きな影響を及ぼしています。

2015年に合意されたパリ協定では、「世界的な平均気温上昇を1.5°Cに抑える努力を追求する」と目標が掲げられました。さらに2018年に公表されたI P C C（気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書では、「2050年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要」とされています。

本町ではこれまでも、温室効果ガスの削減に向けた「COOL CHOICE」にいち早く賛同し、公共施設における高効率型ボイラーや電気自動車の導入をはじめ、照明設備のLED化など省エネルギー対策の実践に取り組んできました。

本町には、大型太陽光発電パネル施設や木質バイオマス発電所の立地のほか、地熱資源に関する調査が実施されるなど、地域に賦存する再生可能エネルギーを最大限に活用した取組を進めていくことが大切であると考えます。

これまで以上に町民、事業者、行政が一丸となって再生可能エネルギーの地産地消や省エネルギー活動を推進し、「まちは子や孫への贈り物」という方針のもと、2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」の実現に向けて、取り組んでいくことを宣言します。

令和4年2月1日

白糠町長 棚野孝夫